

横浜市歯科口腔保健の推進に関する条例 ができました！

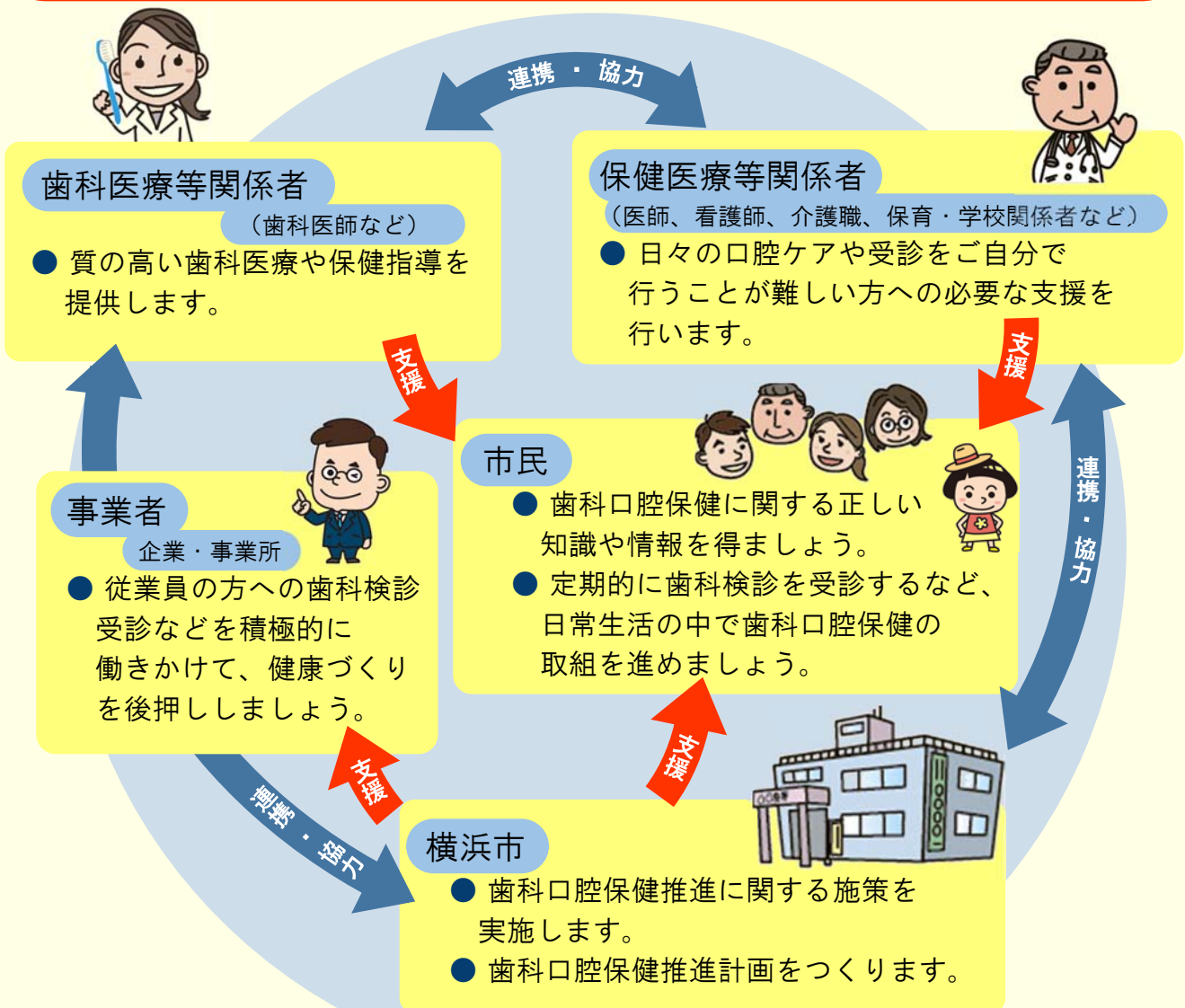
平成31年
4月1日
施行



子どもから高齢者まで、歯と口の健康づくりで毎日をいきいきと！

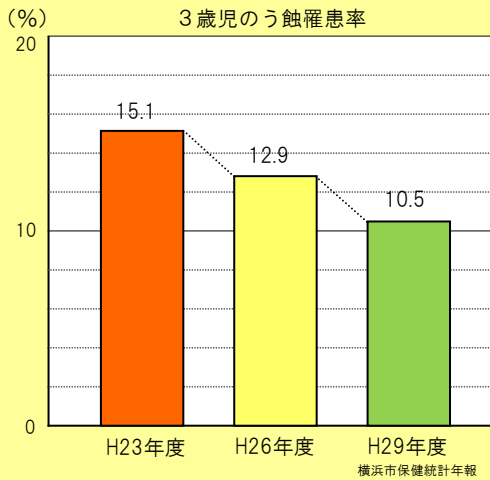
歯と口の健康づくりを通じて、市民の皆さまが健康でいきいきと毎日を過ごすことができるよう、市民の皆さま・歯科医療等関係者・保健医療等関係者・事業者の役割や、横浜市の基本施策などが定められました。

市民の皆さま、歯科医療や保健医療等に関わる皆さま
みんなで歯と口の健康づくりに取り組みましょう！

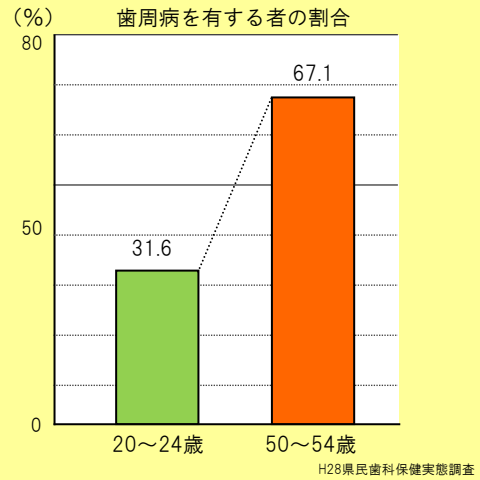


歯と口をめぐる現状～あなたのお口はどうか？～

むし歯のある3歳児の割合は減少しています！



歯周病にかかっている割合は20代でも約3割！
50代は約6割に上ります！



- むし歯のある子どもは減少傾向にあります。これからも正しい歯みがき等を継続しましょう。
- 一方、歯周病にかかっている大人は多い状況です。歯周病は自分では気づかないうちに進行してしまいます。定期的にかかりつけ歯科医でお口のチェックを受けましょう。

歯と口の健康は、全身の健康に関係しています。 健全な発育や、健康寿命延伸にも大きく影響します！

オーラルフレイル

噛む力など口の機能が衰える（オーラルフレイル）と、食べられる食品が減り、低栄養や体力の低下につながると言われています。

心筋梗塞

歯周病菌が原因で血栓をつくり、狭心症や心筋梗塞など心臓病のリスクを高めることがあります。

認知症

歯が減って噛む力が低下すると、脳への刺激が減り認知症の危険性が高まると言われています。

肺炎

飲み込む力が衰えると、食べ物や唾液と共に歯周病菌が気管に入り込み、肺炎を起こすことがあります。

動脈硬化

歯周病菌が血管を傷つけ、コレステロールを取り込み、動脈硬化を起こすと考えられています。

がん治療

歯周病があると、がん治療の際に口内炎が重症化したり、手術後肺炎を起こす原因となることがあります。

低体重児 早産

妊娠中に歯周病が悪化すると、歯周病の炎症によって出る物質が子宮へ影響を及ぼし、低体重児出産や早産を招く可能性があると言われています。

噛む機能

乳幼児期、学齢期によく噛む習慣をつけることで、栄養を確実に吸収できる等、生涯の健康につながります。

糖尿病

糖尿病の人は免疫力が落ち、歯周病が悪化します。歯周病の炎症によって出る物質も、血糖値を下げるインスリンの効きを悪くして糖尿病を悪化させると言われています。



横浜市からのご案内

●横浜市妊婦歯科健康診査

妊娠期からの歯科口腔保健の取組が家族の健康づくりに重要です。ぜひ受診しましょう。[横浜市妊婦歯科健康診査](#) [検索](#)

●横浜市歯周病検診

歯周病は全身の健康に影響があります。定期的にチェックを受けて予防しましょう。[横浜市歯周病検診](#) [検索](#)